

技術資料

確かな収穫へと導く  
2つの力



ルーチン®  
デュオ  
箱粒剤

# ルーチン®デュオ 箱粒剤



バイエル クロップサイエンス株式会社  
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262  
www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078  
(9:00~12:00、13:00~17:00 土・日・祝日を除く)

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

第3版 (P-2023 16.01.JWT)



- 播種前から移植当日まで、箱でいつでも使えて、本田で長く効く、安心の2成分
- いもち病防除の新定番「ルーチン」と初期害虫およびチョウ目害虫に優れた効果を示す新規殺虫剤「シアントラニリプロール」を配合



® はバイエルグループの登録商標



## はじめに

ルーチンデュオ箱粒剤は、植物病害抵抗性誘導剤のイネいもち病防除用殺菌剤イソチアニル、水稲主要害虫に対して効果のあるアントラニリククジアミド系殺虫剤シアントラニプロールを含む水稲育苗箱専用殺虫殺菌剤です。

本剤は、ITM-121箱粒剤の試験コード名で一般社団法人日本植物防疫協会を通じた公的試験が実施され、水稲の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、苗腐敗症、イネミスゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガに対して優れた効果を示す事が確認され、平成26年10月3日付で新規農薬登録されました。

## ルーチンデュオ箱粒剤の特長

いもち病の感染に対し高い活性を示す有効成分「イソチアニル」と初期害虫およびチョウ目害虫等に優れた効果を示す新規有効成分「シアントラニプロール」の水稲用殺虫殺菌混合箱粒剤です。

- ① **いもち病と水稲害虫に優れた効果**  
水稲で問題となる主要な病害虫を幅広く防除します。
- ② **幅広い使用時期**  
播種前から移植当日までの間、いつでも使用可能です。
- ③ **イネに対する安全性が高い**  
薬害が生じるリスクが低いことが確認されています。

## 有効成分の名称及び物理的・化学的性状等

商品名:ルーチンデュオ箱粒剤 農林水産省登録:第23571号 試験名:ITM-121箱粒剤  
種類名:シアントラニプロール・イソチアニル粒剤 性状:類白色細粒 有効年限:5年

有効成分	イソチアニル	シアントラニプロール
成分量	2.0%	0.75%
化学名	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2'-チアゾール-5-カルボキサニリド	3-プロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-(メチルカルバモイル)ピラゾール-5-カルボキサニリド
構造式		
分子量	298.15	473.71
融点	193.7~195.1℃	224℃
水溶解度(20℃)	0.5mg/l	14.24mg/l
蒸気圧	2.36×10 <sup>-7</sup> Pa(25℃)	1.787×10 <sup>-14</sup> Pa(25℃)
水/オクタノール分配係数(log Pow)	2.96(25℃)	1.94±0.11(pH7, 22℃)

## もくじ

- はじめに.....2
- 特長 / 有効成分の名称及び物理的・化学的性状等 / 安全性.....3
- 適用病害虫の範囲および使用方法 / 注意事項 / 有効成分の作用特性.....4
- 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績抜粋.....6~7
- 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績概評(病害).....8~9
- 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績概評(虫害).....10~11

## 安全性

**人畜毒性(製剤) 普通物\*** (「毒物および劇物取り締まり法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指している通称)

急性経口(ラット♀) LD<sub>50</sub> >2,000mg/kg  
 急性経皮(ラット♂♀) LD<sub>50</sub> >2,000mg/kg  
 皮膚刺激性(ウサギ) 刺激性なし  
 眼刺激性(ウサギ) 刺激性なし  
 皮膚感作性(モルモット) 感作性なし

**水産動植物への影響**

魚類急性毒性(コイ) LC<sub>50</sub> >1,000mg/l(96時間)  
 ミジンコ類急性遊泳阻害 EC<sub>50</sub> 0.55mg/l(48時間)  
 藻類生長阻害(緑藻) ErC<sub>50</sub> >1,000mg/l(72時間)



# 適用病害虫の範囲および使用方法 (2016年1月現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種前	本剤:1回  インチャニル:3回以内 (移植時までの処理は1回以外、 本田では2回以内)	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。
	は種時(覆土前) 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	は種前 (は種時(覆土前))		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
	穂枯れ (ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネヒメハモグリバエ		移植3日前 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。

\*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。

## ⚠ 注意事項

- 使用上の注意事項** ●本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用して下さい。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。●育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植して下さい。●軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には葉害を生じるおそれがありますので注意して下さい。●本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。●いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。●きく等の他作物に影響を及ぼす場合がありますので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。●本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 安全使用上の注意事項** ●誤食などのないよう注意して下さい。●かぶれやすい体質の人は取扱に十分注意して下さい。●水産動物植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。●散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動物植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。

## 有効成分の作用特性

### ●インチャニル

インチャニルは、イネ自身が本来持っている病害抵抗性機能を増強させる植物病害抵抗性誘導型殺菌剤です。インチャニルは処理後速やかに根部より吸収され、イネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導(全身獲得抵抗性)します。この時点からイネは、病原菌の侵入に備える自己防御態勢(プライミング状態)を整えます。このようにインチャニルは、イネが先天的に備えている自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。既存の病害抵抗性誘導剤と異なる骨格を持ち、低薬量で高い活性と残効性を発揮することが出来ます。

#### 無処理

いもち病菌の感染  
いもち病菌がイネ体内に侵入します。

↓ 病斑の形成

いもち病菌が進展し、病斑が形成されます。

#### インチャニル処理

いもち病菌の感染

インチャニルを処理する事により、いもち病菌感染に対する防御態勢を整えます(プライミング状態)。プライミング状態のイネは、いもち病菌が感染したら、速やかに抵抗性反応が活性化されます。

↓ 抵抗性反応の活性化

いもち病菌分生胞子 → 過敏反応細胞

インチャニルを処理したイネでは、いもち病菌に侵入された細胞が過敏反応を呈し、侵入菌糸を細胞内に閉じ込めて隣接細胞への菌糸の拡大を阻害します。

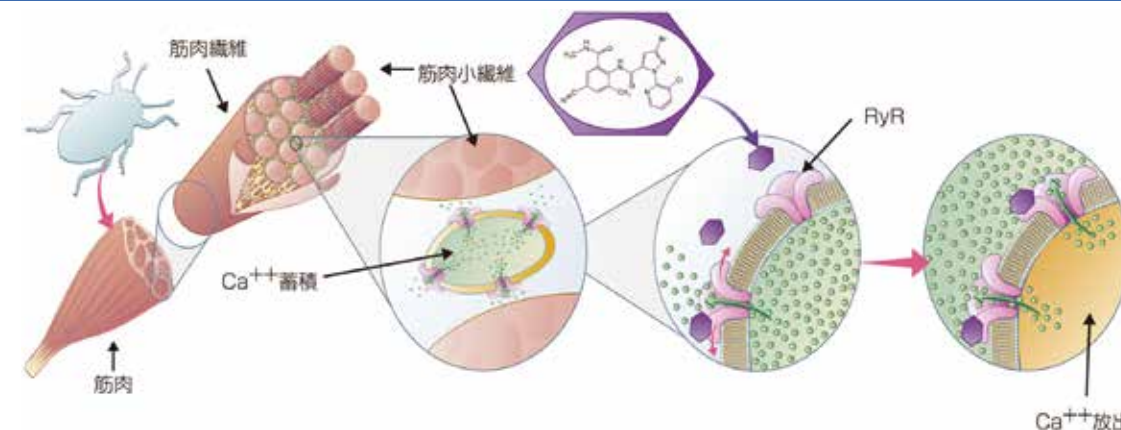
### ●シアントラニプロール

筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に結合して筋小胞体内のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、対象害虫は筋収縮を起こし速やかに活動を停止し死亡します。

筋肉細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整することにより筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。

- ①コウチュウ目、チョウ目、及びカメムシ目の一部に高い効果を示します。
- ②既存薬剤に効果が低下した害虫にも高い効果を示します。
- ③主に経口で作用を発揮し、速やかに食害・吸汁害を停止させます。
- ④イネ体内への浸透性に優れています。
- ⑤長い残効を有します。
- ⑥人畜・鳥類・魚類への安全性が高く、主な天敵類へも高い安全性を有します。

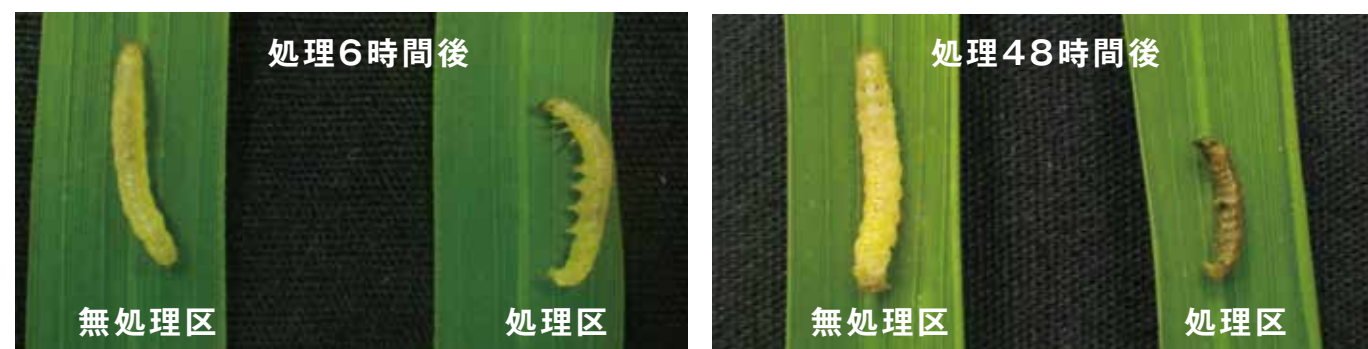
## 速やかな摂食阻害と作物保護作用



## シアントラニプロールは昆虫の筋肉に作用して昆虫の行動に影響を与える

シアントラニプロールを処理した害虫  
コブノメイガに対する効果・症状

試験地場所: 静岡県菊川市 クマイ化学工業株式会社 生物科学研究所



供試虫: コブノメイガ 5齢幼虫  
試験方法: シアントラニプロール濃度が100ppmとなるよう調製した薬液にイネ葉を浸漬し、風乾後供試虫を放虫した。調査は6時間後、48時間後に行った。

## シアントラニプロールのスペクトラム(稲)

目	種名	活性	目	種名	活性
チョウ目	ニカメイチュウ	○	カメムシ目	ツマグロヨコバイ	○
	コブノメイガ	○		トビイロウンカ	△
	フタオビコヤガ	○		ヒメトビウンカ	○
コウチュウ目	イネミズゾウムシ	○		セジロウンカ	△
	イネドロオイムシ	○	バッタ目	コバネイナゴ	○

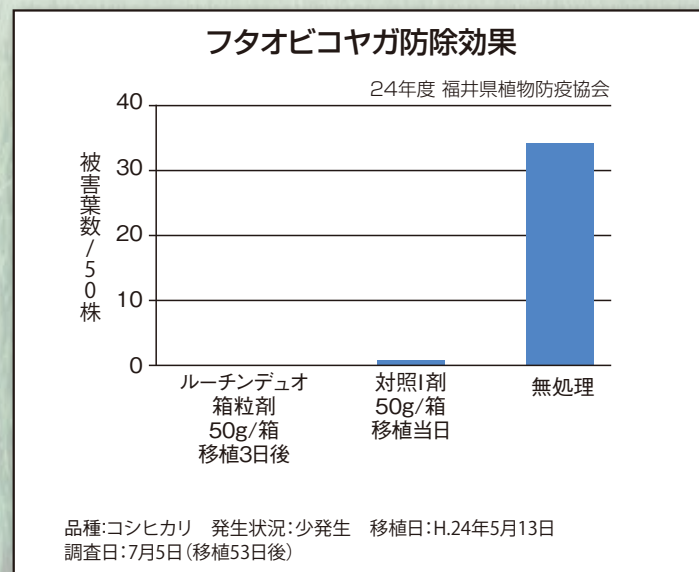
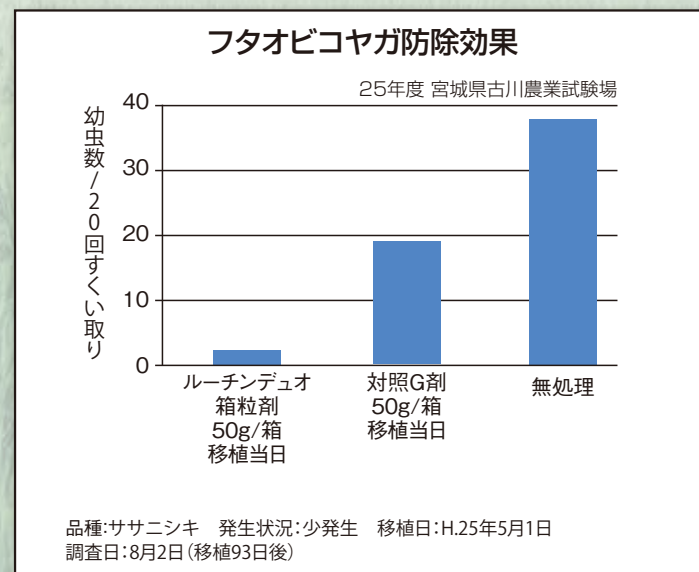
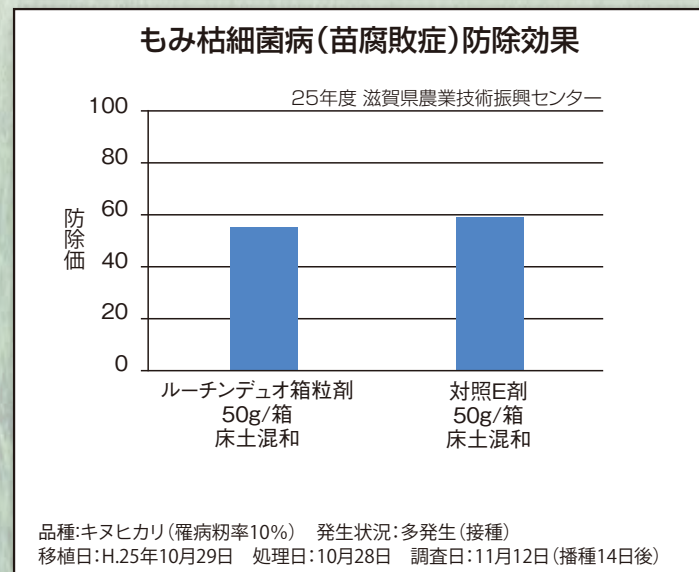
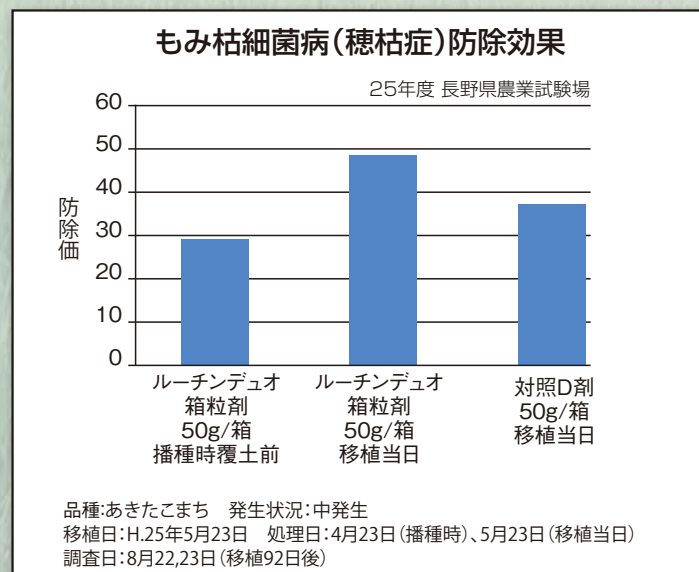
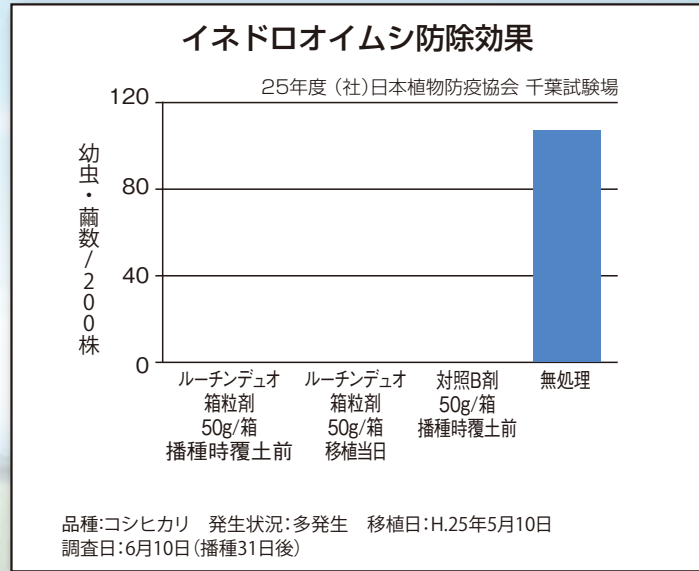
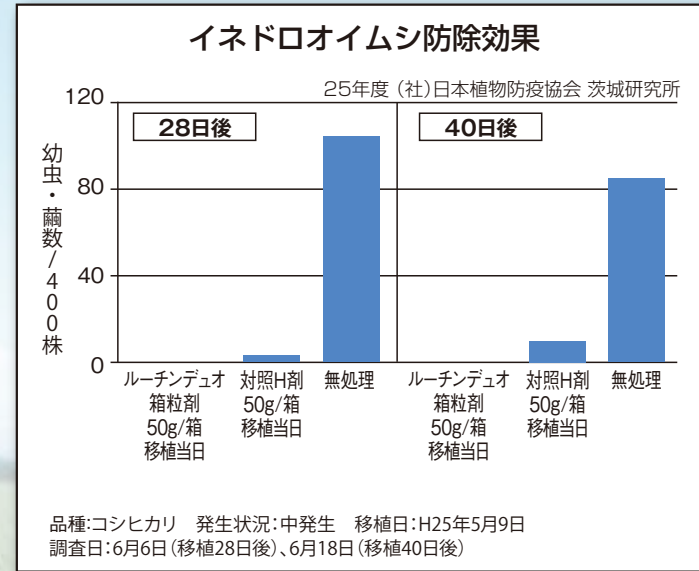
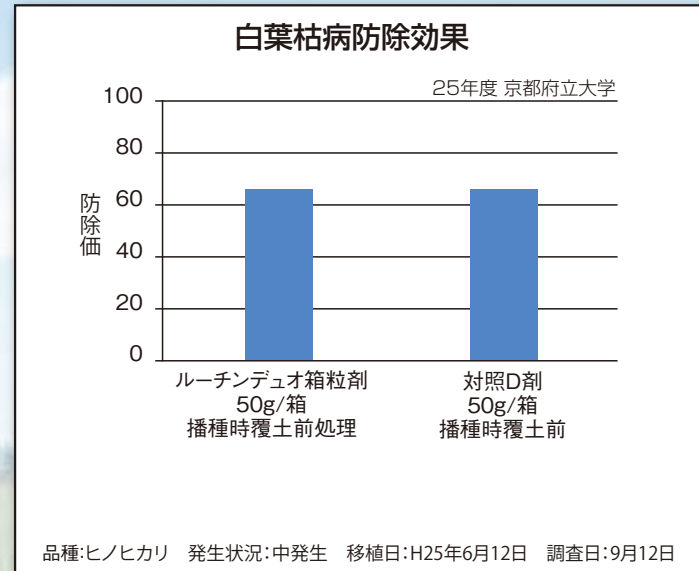
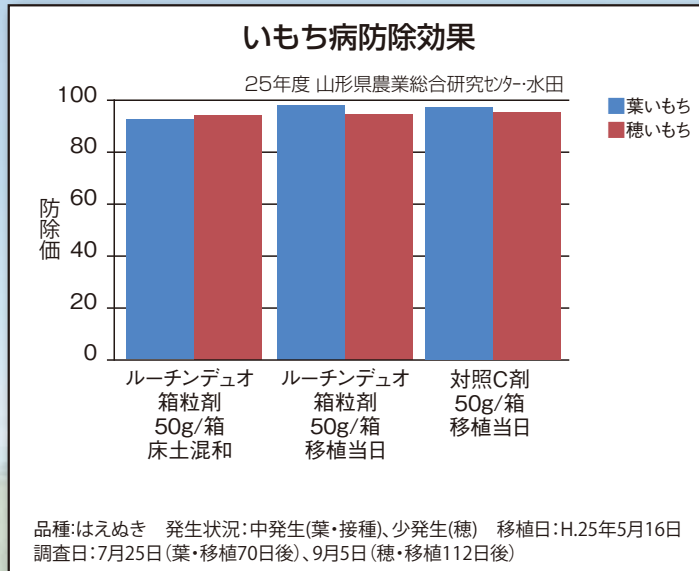
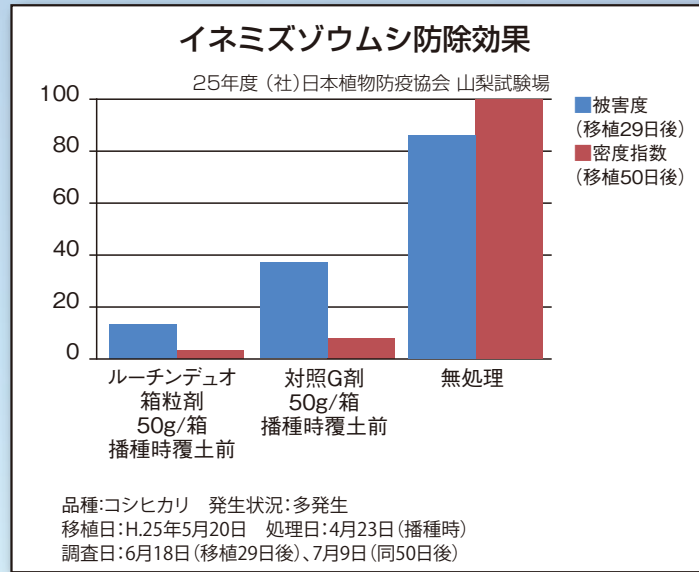
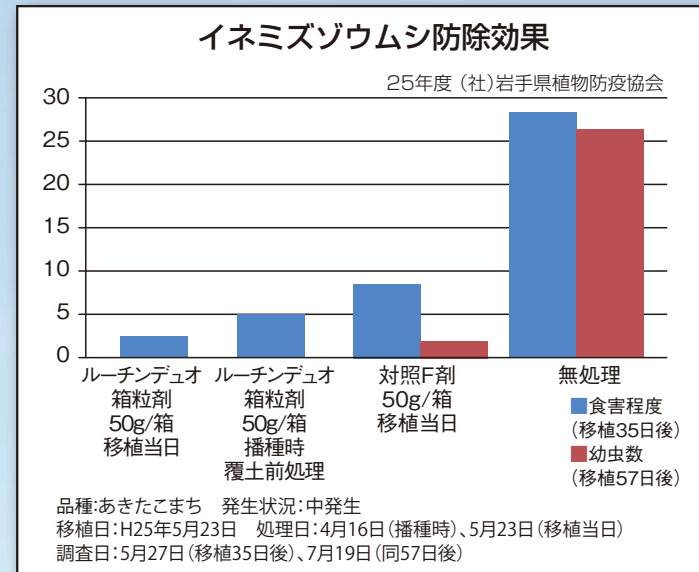
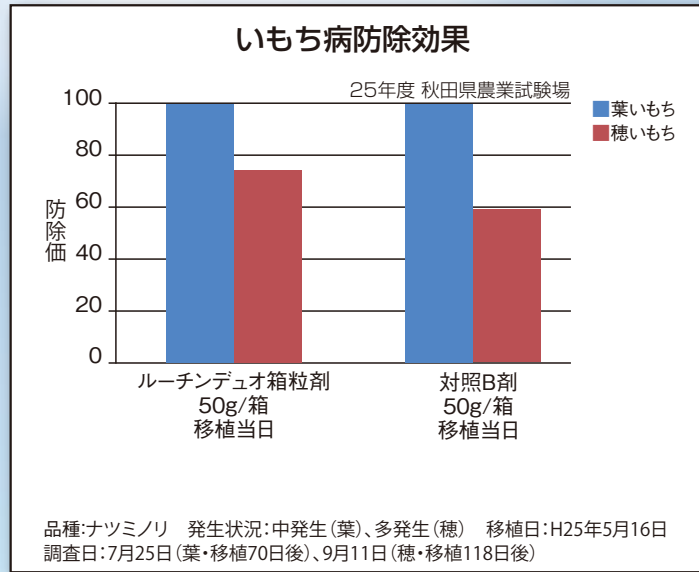
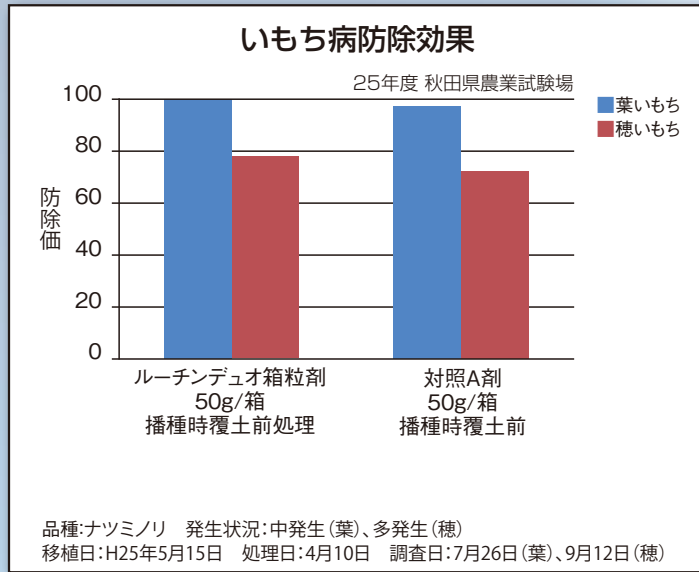
○: 活性あり  
△: 副次的な活性程度







ルーチン  
デュオ  
箱粒剤





# 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績概評

# 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績概評



ルーテン  
デュオ  
箱粒剤

## 薬効・薬害試験成績概評 いもち病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件				対照薬剤名(処理条件)	効 果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
25	イネ(ほしのゆめ) 播種:4/24移植:5/27	いもち病(葉)	北海道上川	本田	少(接種)	50g/中苗箱	育苗箱施用	1	5/27移植当日	対照H剤50g/中苗箱 移植当日処理	C	B	B	—
25	イネ(ほしのゆめ) 播種:4/24移植:5/27	いもち病(葉)	北海道上川	本田	少(接種)	50g/中苗箱	育苗箱施用	1	4/24播種時覆土前	対照H剤50g/中苗箱 播種時覆土前処理	C	B	B	—
25	イネ(ゆめあかり) 移植:5/24出穂:7/30	いもち病	青森	本田	葉:中 (接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/18(播種時覆土前)	対照B剤50g/箱 播種時覆土前	葉:B 穂:A	A C	A C	—
25	イネ(ゆめあかり) 移植:5/24出穂:7/30	いもち病	青森	本田	葉:中 (接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/24(移植当日)	対照B剤50g/箱 移植当日	葉:B 穂:A	A C	A C	—
25	イネ(ナツミリ)播種:4/10 移植:5/15出穂:7/31	いもち病	秋田	本田	葉:中 (接種) 穂:多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/10(播種時覆土前)	対照A剤50g/箱 播種時覆土前	B B	A B	A B	—
25	イネ(ナツミリ)播種:4/10 移植:5/16出穂:7/30	いもち病	秋田	本田	葉:中 (接種) 穂:多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/16(移植当日)	対照B剤50g/箱 移植当日	B A	A B	A B	—
25	イネ(はえぬき)は種:4/19 移植:5/16出穂:8/3	いもち病	山形水田	本田	葉:中 (接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/19(播種前)床土混和	対照C剤50g/箱 5/16(移植当日)	B B	A A	A B	—
25	イネ(はえぬき)は種:4/19 移植:5/16出穂:8/3	いもち病	山形水田	本田	葉:中 (接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/16(移植当日)	対照C剤50g/箱 5/16(移植当日)	B B	A B	A B	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/14出穂:8/25頃	いもち病(葉、穂)	京都府大(病)	本田	葉:多 (接種) 穂:多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(播種当日)覆土混和	対照D剤50g/箱 移植2日前(6/12)処理	B B	A B	A B	—
25	イネ(関東90号) 移植:6/13出穂:8/20	いもち病(葉、穂)	岡山	本田	葉:甚 (接種) 穂:甚	50g/箱	育苗箱施用	1	5/27(播種時)覆土混和1	対照I剤50g/箱 6/13(移植当日)	B C	A C	A C	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/7出穂:7/27	いもち病(葉、穂)	兵庫植	本田	葉:少 (接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/5(播種時覆土前)	対照J剤50g/箱 移植当日(5/7)	B A	B B	B B	—

## 薬効・薬害試験成績概評 もみ枯細菌病

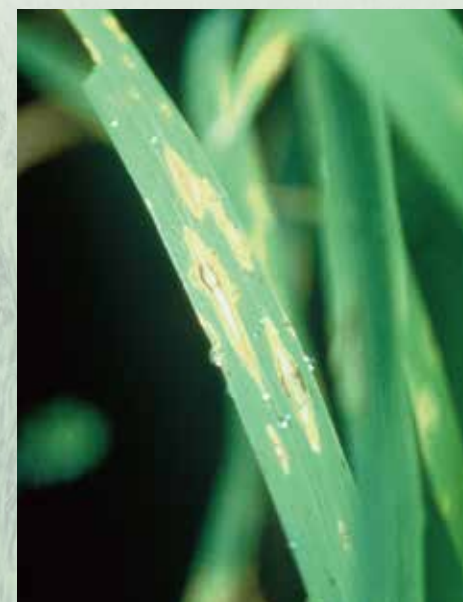
年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件				対照薬剤名(処理条件)	効 果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/9出穂:7/27	もみ枯細菌病	日植防千葉	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	4/12床土混和	対照K剤50g/箱 4/15播種時覆土前	C	C	C	—
25	イネ(あきたこまち) 移植:5/23出穂:7/29	もみ枯細菌病	長野	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	4/30(播種時覆土前)	対照D剤50g/箱 (移植当日)5/23	B	C	C	—
25	イネ(あきたこまち) 移植:5/23出穂:7/29	もみ枯細菌病	長野	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/23(移植当日)	対照D剤50g/箱 (移植当日)5/23	A	B	B	—
25	イネ(キヌヒカリ) 移植:5/14出穂:7/28	もみ枯細菌病	滋賀	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/14(移植当日)	対照L剤50g/箱 移植当日	C	B	C	—
25	イネ(キヌヒカリ) 移植:5/14出穂:7/28	もみ枯細菌病	滋賀	本田	穂中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	4/23(播種前)覆土混和	対照L剤50g/箱 移植当日	B	B	B	±
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/12出穂:8/25頃	もみ枯細菌病	京都府大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/12(移植当日)	対照D剤50g/箱 移植2日前(6/10)処理	B	B	B	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/12出穂:8/25頃	もみ枯細菌病	京都府大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(播種当日)床土混和	対照D剤50g/箱 移植2日前(6/10)処理	C	C	C	—
25	イネ(ミルキークイーン) 移植:5/8出穂期:7/22	もみ枯細菌病	高知大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	4/18(播種時覆土前)	対照D剤50g/箱 移植当日	C	B	B	—
25	イネ(ミルキークイーン) 移植:5/8出穂期:7/22	もみ枯細菌病	高知大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(移植時)	対照D剤50g/箱 移植当日	B	B	B	—

## 薬効・薬害試験成績概評 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件				対照薬剤名(処理条件)	効 果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
25	イネ(コシヒカリ) 播種:8/26	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	富山	施設	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	8/26(播種時覆土前)	対照K剤50g/箱 播種時覆土前	A	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:5/10	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	茨城	施設(箱)	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/10(播種時覆土前)散布	対照E剤20g/箱	D	D	D	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:10/1	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	長野	施設(箱)	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	10/1(播種時)床土混和	対照E剤50g/箱 (床土混和)	C	C	C	—
25	イネ(キヌヒカリ) 播種:10/29	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	滋賀	室内	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	10/29床土混和	対照E剤30g/箱 床土混和	B	A	A	—
25	イネ(日本晴) 播種:6/15	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	京都府大(病)	施設	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/15(播種時)覆土混和	対照E剤20g/箱 播種時覆土前(6/15)処理	D	C	C	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 播種:6/12	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	近中四農研(病)	施設	中	50g/箱	育苗箱施用	1	6/12覆土混和	対照E剤20g/箱 播種前覆土混和処理(6/12)1回	C	C	C	—

## 薬効・薬害試験成績概評 白葉枯病

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件				対照薬剤名(処理条件)	効 果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/3出穂:8/26	白葉枯病	日植防千葉	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/3(移植当日)	対照K剤50g/箱 5/8播種時覆土前	B	C	C	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/3出穂:8/26	白葉枯病	日植防千葉	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(播種時覆土前)散布	対照K剤50g/箱 5/8播種時覆土前	B	B	B	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/12出穂:8/25頃	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/12(移植当日)	対照D剤50g/箱 移植2日前(6/10)処理	B	B	B	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/12出穂:8/25頃	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(播種当日)	対照D剤50g/箱 移植2日前(6/10)処理	C	B	B	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/6出穂:8/19	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	6/6(移植当日)	対照D剤50g/箱 移植当日	B	C	C	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/20出穂:8/27	白葉枯病	福岡	本田	多(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/31(播種時覆土前)	対照D剤50g/箱 (6/20、移植当日)	B	C	C	—
25	イネ(ヒノヒカリ) 移植:6/11出穂:8/21	白葉枯病	大分植	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(播種前)覆土混和	対照D剤50g/箱 6/11・移植当日	B	B	B	—



葉いもち



白葉枯病



もみ枯細菌病



# 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績概評

# 日本植物防疫協会新農薬実用化試験成績概評



ルーテン  
デュオ  
箱粒剤

## 薬効・薬害試験成績概評 イネドロオイムシ

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
24	イネ(つがるロマン) 播種:4/17 移植:5/12	イネドロオイムシ	青森	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/21(移植3日前)	対照G剤50g/箱 (播種時覆土前処理)	B	A	B	—
24	イネ(あきたこまち) 播種:4/17 移植:5/22	イネドロオイムシ	岩手植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/19(移植3日前)	対照F剤50g/箱 5/22	B	A	A	—
24	イネ(ひとめぼれ) 播種:4/1 移植:5/6	イネドロオイムシ	宮城植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/6(移植3日前)	対照M剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
24	イネ(コシヒカリ) 播種:4/14 移植:5/10	イネドロオイムシ	日植防千葉	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/7(移植3日前)	対照N剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(ほしのゆめ) 播種:4/19 移植:5/21	イネドロオイムシ	北海道中央(ク)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/19(播種時覆土前)	対照G剤50g/箱 播種時覆土前	B	A	B	—
25	イネ(ほしのゆめ) 播種:4/19 移植:5/21	イネドロオイムシ	北海道中央(ク)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/21(移植当日)	対照G剤50g/箱 移植当日	B	A	B	—
25	イネ(ななつぼし) 播種:4/20 移植:6/2	イネドロオイムシ	シンテック (北海道)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/20(播種時覆土前)	対照I剤50g/箱 移植当日	B	A	B	—
25	イネ(あきたこまち) 播種:4/16 移植:5/23	イネドロオイムシ	岩手植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/16(播種前) 覆土混和	対照F剤50g/箱 5/23	B	A	A	—
25	イネ(ひとめぼれ) 播種:3/30 移植:5/5	イネドロオイムシ	宮城植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	3/30(播種時覆土前)	対照M剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(あきたこまち) 移植:5/15	イネドロオイムシ	秋田	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/15(移植当日)	対照O剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/10 移植:5/9	イネドロオイムシ	日植防茨城	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/10(播種前) 床土混和	対照B剤50g/箱 播種時覆土前 4/10	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/10 移植:5/9	イネドロオイムシ	日植防茨城	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植当日)	対照H剤50g/箱 移植当日 5/9	A	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/10	イネドロオイムシ	日植防千葉	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/15(播種時覆土前)	対照B剤50g/箱 播種時覆土前 4/15	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/10	イネドロオイムシ	日植防千葉	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/10(移植当日)	対照B剤50g/箱 播種時覆土前 4/15	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/18	イネドロオイムシ	日植防山梨	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/18(移植当日)	対照G剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/20	イネドロオイムシ	日植防山梨	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	4/23(播種時覆土前)	対照G剤50g/箱 播種時覆土前	B	A	A	—

## 薬効・薬害試験成績概評 フタオビコヤガ

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
24	イネ(ひとめぼれ) 播種:4/1 移植:5/6	フタオビコヤガ	宮城植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/6(移植3日前)	対照M剤50g/箱 移植当日	A	A	B	—
24	イネ(コシヒカリ) 播種:4/18 移植:5/13	フタオビコヤガ	福井植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/10(移植3日前)	対照I剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
24	イネ(きぬむすめ) 播種:5/8 移植:5/28	フタオビコヤガ	鳥取	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/25(移植3日前)	対照B剤50g/箱 移植当日 育苗箱施用	B	B	B	—
25	イネ(ササニシキ) 移植:5/1	フタオビコヤガ	宮城古川	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/1(移植当日)	対照G剤50g/箱 移植当日	A	A	A	—
25	イネ(ひとめぼれ) 播種:3/30 移植:5/5	フタオビコヤガ	宮城植	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	3/30(播種時覆土前)	対照M剤50g/箱 移植当日	A	A	B	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/17 移植:5/12	フタオビコヤガ	福井植	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/17(播種時覆土前)	対照I剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/17 移植:5/12	フタオビコヤガ	福井植	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植3日前)	対照I剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/17 移植:5/12	フタオビコヤガ	福井植	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/14(播種前) 覆土混和	対照I剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(キヌヒカリ) 播種:5/20 移植:6/12	フタオビコヤガ	油田アグリサーチ (滋賀)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	6/12(移植当日)	対照B剤50g/箱 移植当日	A	A	A	—
25	イネ(キヌヒカリ) 播種:5/20 移植:6/12	フタオビコヤガ	油田アグリサーチ (滋賀)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/20(播種時) 覆土混和	対照B剤50g/箱 移植当日	A	A	A	—
25	イネ(きぬむすめ) 播種:5/8 移植:5/28	フタオビコヤガ	鳥取	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/8(播種時覆土前)	対照B剤50g/箱 移植当日 育苗箱施用	A	B	B	—
25	イネ(しずく媛) 移植:6/21	フタオビコヤガ	愛媛	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/31(播種前) 床土混和	対照P剤50g/箱 移植当日	A	A	A	—

## 薬効・薬害試験成績概評 イネミズゾウムシ

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						濃度・量	処理法	回数	処理年月日(時期)(播種日) <判定した調査時期>		対照	対無 処理	判定	薬害
24	イネ(つがるロマン) 播種:4/17 移植:5/12	イネミズゾウムシ	青森	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/21(移植3日前)	対照G剤50g/箱 (播種時覆土前処理)	B	A	B	—
24	イネ(あきたこまち) 播種:4/17 移植:5/22	イネミズゾウムシ	岩手植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/19(移植3日前)	対照F剤50g/箱 5/22	B	A	A	—
24	イネ(ひとめぼれ) 播種:4/14 移植:5/12	イネミズゾウムシ	宮城植	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植3日前)	対照Q剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
24	イネ(コシヒカリ) 播種:4/14 移植:5/10	イネミズゾウムシ	日植防千葉	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/7(移植3日前)	対照N剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(あきたこまち) 播種:4/16 移植:5/23	イネミズゾウムシ	岩手植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	4/16(播種時覆土前)	対照F剤50g/箱 5/23	B	A	A	—
25	イネ(あきたこまち) 播種:4/16 移植:5/23	イネミズゾウムシ	岩手植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/23(移植当日)	対照F剤50g/箱 5/23	B	A	A	—
25	イネ(あきたこまち) 播種:4/26 移植:5/20	イネミズゾウムシ	山形	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	4/26(播種時覆土前)	対照B剤50g/箱 移植当日	A	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/16 移植:5/14	イネミズゾウムシ	福島	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱施用	1	4/16(播種前) 覆土混和	対照D剤50g/箱 移植当日	B	A	B	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/10 移植:5/9	イネミズゾウムシ	日植防茨城	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	5/9(移植当日)	対照H剤50g/箱 移植当日 5/9	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/10 移植:5/9	イネミズゾウムシ	日植防茨城	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/10(播種前) 床土混和	対照B剤50g/箱 播種時覆土前 4/10	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/10	イネミズゾウムシ	日植防千葉	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/15(播種時覆土前)	対照B剤50g/箱 播種時覆土前 4/15	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:3/26 移植:4/23	イネミズゾウムシ	愛知(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	4/23(移植当日)	対照G剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:3/26 移植:4/23	イネミズゾウムシ	愛知(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱施用	1	3/25(播種前日)	対照G剤50g/箱 移植当日	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 播種:4/23 移植:5/20	イネミズゾウムシ	日植防山梨	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/23(播種時覆土前)	対照G剤50g/箱 播種時覆土前	A	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/7	イネミズゾウムシ	兵庫植	本田	多	50g/箱	育苗箱施用	1	4/10(播種時覆土前)	対照H剤50g/箱 移植当日施用	B	A	A	—
25	イネ(コシヒカリ) 移植:5/7	イネミズゾウムシ	兵庫植	本田	中	50g/箱	育苗箱施用	1	5/7(移植当日)	対照H剤50g/箱 移植当日施用	B	A	A	—



イネドロオイムシ



フタオビコヤガ



イネミズゾウムシ